



2023年3月期 第3四半期決算短信(日本基準)(非連結)

2023年2月10日

上場会社名 株式会社アルファポリス

上場取引所 東

コード番号 9467 URL <https://www.alphapolis.co.jp/company/>

代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 梶本 雄介

問合せ先責任者 (役職名) 取締役兼管理本部本部長 (氏名) 大久保 明道

TEL 03-6277-0123

四半期報告書提出予定日 2023年2月13日

配当支払開始予定日

四半期決算補足説明資料作成の有無 : 有

四半期決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

1. 2023年3月期第3四半期の業績(2022年4月1日～2022年12月31日)

(1) 経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2023年3月期第3四半期	6,974	0.1	1,856	11.1	1,862	11.0	1,149	10.4
2022年3月期第3四半期	6,981	22.0	1,671	4.8	1,677	4.8	1,040	3.2

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
2023年3月期第3四半期	118.63	
2022年3月期第3四半期	107.44	

(注) 潜在株式調整後1株当たり四半期純利益については、潜在株式が存在しないため記載していません。

(2) 財政状態

	総資産		純資産		自己資本比率	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2023年3月期第3四半期	11,786		9,928		84.2	
2022年3月期	10,501		8,779		83.6	

(参考) 自己資本 2023年3月期第3四半期 9,928百万円 2022年3月期 8,779百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2022年3月期		0.00		0.00	0.00
2023年3月期		0.00			
2023年3月期(予想)				0.00	0.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 2023年3月期の業績予想(2022年4月1日～2023年3月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	9,500	4.5	2,400	9.4	2,400	9.0	1,488	7.1	153.61

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

注記事項

(1) 四半期財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 有

(2) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 有
以外の会計方針の変更 : 無
会計上の見積りの変更 : 無
修正再表示 : 無

(3) 発行済株式数(普通株式)

期末発行済株式数(自己株式を含む)	2023年3月期3Q	9,687,400 株	2022年3月期	9,687,400 株
期末自己株式数	2023年3月期3Q	270 株	2022年3月期	270 株
期中平均株式数(四半期累計)	2023年3月期3Q	9,687,130 株	2022年3月期3Q	9,687,170 株

四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

(将来に関する記述等についてのご注意)

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、添付資料3ページ「1. 当四半期決算に関する定性的情報(3)業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

(決算補足説明資料の入手方法)

決算補足説明資料はTDnetで同日開示しております。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	3
(3) 業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. 四半期財務諸表及び主な注記	4
(1) 四半期貸借対照表	4
(2) 四半期損益計算書	5
第3四半期累計期間	5
(3) 四半期財務諸表に関する注記事項	6
(継続企業の前提に関する注記)	6
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	6
(四半期財務諸表の作成に特有の会計処理の適用)	6
(会計方針の変更)	6
(セグメント情報等)	6
(重要な後発事象)	6

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当第3四半期累計期間（2022年4月1日から2022年12月31日まで）におけるわが国経済は、ウィズコロナの下で各種政策の効果もあって持ち直しの動きがみられるものの、海外景気の下振れによるリスクや、物価上昇、供給面での制約等による影響が懸念される等、依然として先行き不透明な状況が続いております。

当社が属する出版業界におきましては、紙と電子を合算した出版市場（推定販売金額）は、4年ぶりのマイナス成長となりました。公益社団法人全国出版協会・出版科学研究所によると、2022年（1月から12月まで）の紙と電子出版を合算した推定販売金額は前年比2.6%減の1兆6,305億円となり、その内訳は、紙の出版物については同6.5%減の1兆1,292億円、電子出版については同7.5%増の5,013億円と、紙の市場が前年を下回った一方で、電子出版市場の拡大が続いております。

こうした環境の中、インターネット発の出版の先駆者である当社は、「これまでのやり方や常識に全くとらわれず」、「良いもの面白いものが望まれるものを徹底的に追求していく」というミッションの下、インターネット時代の新しいエンターテインメントを創造することを目的とし、インターネット上で話題となっている小説・漫画等のコンテンツを書籍化する事業に取り組んでまいりました。

当第3四半期累計期間における書籍のジャンル別の概況は以下の通りであります。

① ライトノベル

当第3四半期累計期間の刊行点数は前年同期を大きく上回る193点（前年同期比40点増）となりました。各書籍の売れ行きにつきましては、『余りモノ異世界人の自由生活』や『攫われた転生王子は下町でスローライフを満喫中!?!』等の当社開催の賞レースから誕生した作品が好調に推移いたしました。また、2021年3月に新たに創刊したボーイズラブレーベル「アンダルシュノベルズ」につきましても、電子書籍との親和性も高く好調に推移しており、「男性向けライトノベル」「レジーナブックス」に次ぐレーベルに成長しております。

結果、当第3四半期累計期間の売上高は想定通りに進捗しましたが、前年同期における『月が導く異世界道中』のTVアニメ放送に伴う原作小説売上の大幅伸長の反動減から前年同期を僅かに下回る金額で着地いたしました。

② 漫画

当第3四半期累計期間の刊行点数は前年同期を上回る112点（前年同期比6点増）となりました。各書籍の売れ行きにつきましては、TVアニメ第2期制作中の大ヒット作『月が導く異世界道中』の最新11巻が紙書籍、電子書籍ともに前巻を超える好調な売れ行きを示し、また『ゲート』『自称悪役令嬢な妻の観察記録。』等の大型人気シリーズの続刊も引き続き堅調に推移いたしました。さらに、当ジャンルと親和性が非常に高い電子書籍販売につきましても、販売体制を強化したことや、電子取次及び電子ストアと密なコミュニケーションを図り、各ストアの特色やユーザー層に合わせた拡販施策を推進したこと等により、売上は増加いたしました。

結果、当第3四半期累計期間の売上高は『月が導く異世界道中』のTVアニメ放送によって大きく伸長した前年同期を上回る金額で着地いたしました。

③ 文庫

当第3四半期累計期間の刊行点数は前年同期を上回る120点（前年同期比13点増）となりました。時代小説ジャンルとして第7回歴史・時代小説大賞の大賞受賞作である『あしでまとい』を刊行し、さらにキャラ文芸ジャンルからは『こちら鎌倉あやかし社務所保険窓口』『久遠の呪祓師—— 怪異探偵犬神零の大正帝都アヤカシ奇譚』等の複数の書籍を刊行する等、取り扱いジャンルの開拓及び拡大に引き続き注力してまいりました。

結果、当第3四半期累計期間の売上高は前年同期を上回る金額で着地いたしました。

④ その他

当第3四半期累計期間の刊行点数は5点（前年同期比3点減）となりました。プロ野球東京ヤクルトスワローズ監督の高津臣吾氏による大人気ビジネス連載を書籍化した『明るく楽しく、強いチームをつくるために僕が考えてきたこと』を刊行し、想定通り好調な売れ行きを示し、当ジャンルの売上を牽引いたしました。

結果、当第3四半期累計期間の売上高は前年同期を上回る金額で着地いたしました。

以上の活動の結果、当第3四半期累計期間の売上高は、『月が導く異世界道中』のTVアニメ放送により大幅に伸長した前第3四半期累計期間の売上高と同水準となる6,974,871千円（前年同期比0.1%減）となりました。

利益面におきましては、主に前期7月から9月に実施したテレビCM放映をはじめとした当社サービスの認知度向上に向けた大型成長投資により一時的に増加した販売費及び一般管理費が減少したことから、当第3四半期累計期間の営業利益は1,856,768千円（前年同期比11.1%増）、経常利益は1,862,993千円（同11.0%増）、四半期純利益は1,149,215千円（同10.4%増）となり、特に当第3四半期会計期間の利益は、四半期単位で過去最高を更新いたしました。

（注）シリーズ累計部数：同作品の続編に加え、同作品の漫画及び文庫を含み、部数は電子書籍販売数を含む。

（2）財政状態に関する説明

① 資産

当第3四半期会計期間末の流動資産は、前事業年度末に比べ1,341,097千円増加し、11,481,476千円となりました。これは主に、現金及び預金が増加（前事業年度末比961,793千円増）したこと並びに売掛金が増加（同242,843千円増）したことによるものであります。

固定資産は、前事業年度末に比べ56,016千円減少し、305,198千円となりました。これは主に、投資その他の資産が減少（同43,755千円減）したこと及び無形固定資産が減少（同9,545千円減）したことによるものであります。

② 負債

当第3四半期会計期間末の流動負債は、前事業年度末に比べ110,203千円増加し、1,811,490千円となりました。これは主に、流動負債のその他の増加（前事業年度末比110,702千円増）によるものであります。

固定負債は、前事業年度末に比べ25,662千円増加し、46,521千円となりました。これは主に、長期借入金の増加（同26,654千円増）によるものであります。

③ 純資産

当第3四半期会計期間末の純資産は、前事業年度末に比べ1,149,215千円増加し、9,928,663千円となりました。これは全て、利益剰余金の増加によるものであります。

（3）業績予想などの将来予測情報に関する説明

2023年3月期の業績予想につきましては、2022年5月13日に公表いたしました通期の業績予想に変更はありません。

なお、業績予想につきましては、本資料の発表日において入手可能な情報に基づき判断したものであり、実際の業績は、今後様々な要因によって予想数値と異なる場合があります。

2. 四半期財務諸表及び主な注記

(1) 四半期貸借対照表

(単位：千円)

	前事業年度 (2022年3月31日)	当第3四半期会計期間 (2022年12月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	7,102,594	8,064,388
売掛金	2,637,541	2,880,385
製品	192,406	236,819
仕掛品	155,389	218,832
その他	52,447	81,051
流動資産合計	10,140,379	11,481,476
固定資産		
有形固定資産	34,333	31,618
無形固定資産	46,569	37,024
投資その他の資産	280,311	236,555
固定資産合計	361,214	305,198
資産合計	10,501,594	11,786,675
負債の部		
流動負債		
買掛金	52,096	45,552
1年内返済予定の長期借入金	20,088	27,542
未払金	600,211	658,052
未払法人税等	364,757	335,950
賞与引当金	50,593	11,832
投稿インセンティブ引当金	28,354	36,446
返金負債	427,174	427,401
その他	158,011	268,713
流動負債合計	1,701,287	1,811,490
固定負債		
長期借入金	17,164	43,818
その他	3,694	2,703
固定負債合計	20,858	46,521
負債合計	1,722,146	1,858,011
純資産の部		
株主資本		
資本金	863,824	863,824
資本剰余金	853,824	853,824
利益剰余金	7,062,436	8,211,652
自己株式	△637	△637
株主資本合計	8,779,448	9,928,663
純資産合計	8,779,448	9,928,663
負債純資産合計	10,501,594	11,786,675

(2) 四半期損益計算書
(第3四半期累計期間)

(単位：千円)

	前第3四半期累計期間 (自 2021年4月1日 至 2021年12月31日)	当第3四半期累計期間 (自 2022年4月1日 至 2022年12月31日)
売上高	6,981,346	6,974,871
売上原価	1,553,815	1,654,773
売上総利益	5,427,531	5,320,097
販売費及び一般管理費	3,755,800	3,463,329
営業利益	1,671,730	1,856,768
営業外収益		
受取利息	25	31
前払式支払手段失効益	6,653	5,440
その他	—	895
営業外収益合計	6,679	6,367
営業外費用		
支払利息	174	142
その他	410	—
営業外費用合計	585	142
経常利益	1,677,824	1,862,993
特別損失		
関係会社株式評価損	—	9,419
特別損失合計	—	9,419
税引前四半期純利益	1,677,824	1,853,574
法人税等	637,063	704,358
四半期純利益	1,040,760	1,149,215

（3）四半期財務諸表に関する注記事項

（継続企業の前提に関する注記）

該当事項はありません。

（株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記）

該当事項はありません。

（四半期財務諸表の作成に特有の会計処理の適用）

（税金費用の計算）

税金費用については、当第3四半期会計期間を含む事業年度の税引前当期純利益に対する税効果会計適用後の実効税率を合理的に見積り、税引前四半期純利益に当該見積実効税率を乗じて計算しております。

（会計方針の変更）

（時価の算定に関する会計基準の適用指針の適用）

「時価の算定に関する会計基準の適用指針」（企業会計基準適用指針第31号 2021年6月17日。以下「時価算定会計基準適用指針」という。）を第1四半期会計期間の期首から適用し、時価算定会計基準適用指針第27-2項に定める経過的な取扱いに従って、時価算定会計基準適用指針が定める新たな会計方針を将来にわたって適用することといたしました。これによる四半期財務諸表への影響はありません。

（セグメント情報等）

当社は、出版事業の単一セグメントであるため、記載を省略しております。

（重要な後発事象）

該当事項はありません。